

## 2月のイベントカレンダー

1	金	
2	土	13:30 ハローワールドクラブ
3	日	休館日
4	月	休館日
5	火	13:30 日本語サロン
6	水	
7	木	
8	金	
9	土	13:30 ハローワールドクラブ
10	日	10:00 子ども日本語ひろば
11	月	休館日
12	火	13:30 日本語サロン
13	水	
14	木	
15	金	
16	土	13:30 ハローワールドクラブ
17	日	休館日 14:00~国際理解講座
18	月	休館日
19	火	13:30 日本語サロン 18:30 幹事会
20	水	
21	木	
22	金	
23	土	13:30 ハローワールドクラブ 13:30 FINE発送作業
24	日	10:00 子ども日本語ひろば 10:00 外国語おはなしのへや
25	月	休館日
26	火	13:30 日本語サロン
27	水	
28	木	

## ホストファミリー募集

オーストラリアクイーンズランド州出身の留学生(高校生)のホームステイをお引き受けくださるご家庭を募集します。  
 期間 3月23日(土) ~ 2020年2月上旬  
 ※受入期間は、1ヶ月からでも大丈夫です。  
 費用 宿泊、食事等はボランティアでお願いします。  
 内容 学生はファミリー宅から会津学鳳高校へ通学します。  
 ※サポートはAFS日本協会福島支部で行います。  
 申込締切 2月10日(日)  
 問合せ 公益財団法人AFS日本協会 福島支部  
 支部長 近内 成子 さん TEL 090-6252-0265

## ようこそ会津へ おもてなし講習会

2020年東京オリンピック・パラリンピックを控え、タイ王国のホストタウンとして、会津若松市を訪れる外国人観光客の増加が予想されます。私たち自身が世界の多様な慣習や宗教を理解し、様々な国からのお客様を迎えるにあたり、「食」を通したおもてなしとして「ムスリムおもてなし講座」を開催します。多様な「食」への対応を学ぶ良い機会ですので、お気軽にお越しください。

主催 会津若松市食と農の景勝地推進協議会、あいづ食の陣実行委員会、会津若松市グリーンツーリズム・クラブ、会津若松市農業振興協議会

日時 2月21日(木) 14:30~16:30 (参加無料)

会場 会津若松ワシントンホテル

講師 岡田 純一 氏(北海道ムスリムインバウンド推進協議会)

申込締切 2月12日(火)

申込・問合せ 会津若松観光ビューロー  
TEL 0242-23-8000 FAX 0242-23-9000  
E-mail: info@aizukanko.com

## 一日体験入隊!

JICA二本松訓練所では、特別企画「一日体験入隊！」を開催します。参加者から合格者が続出の人気企画。実際に行われている訓練所のプログラムの一部を体験することができ、訓練生、スタッフやJICA海外協力隊経験者から応募に関するアドバイスを聞くことができる二本松訓練所の強力な合格サポートプログラムです。

日時 2月23日(土) 11:50~17:30 (11:30~受付)

会場 二本松青年海外協力隊訓練所(JICA二本松)  
※郡山・二本松発の無料送迎バスあり！

費用 500円(交流ランチ代)

申込締切 2月1日(金)

申込・問合せ JICA二本松 TEL 0243-24-3200 FAX 0243-24-3214  
E-mail: njvtpr@jica.go.jp

## 情報誌発送お手伝いのお願い

情報誌「FINE」「JTF」「窓」の発送作業を、おしゃべりしながらお手伝いをしてみませんか。  
 当日直接協会へお越しください(申込不要)。  
 日時 2月23日(土) 13:30~

会津若松市国際交流協会 情報紙

**FINE**

Freedom/International/Necessity/Experience

## 国際理解講座

私たちの生活にかかせないスマートフォン。  
 でも、知っていますか？私たちの手元に届くまでに、  
 どんな国でどのような人が関わっているのか？スマホ  
 の原材料はどこで調達されているのか？

スマホとわたしたちの関係を紐解きながら、持続可  
 能な社会に向けてわたしたちができるることを、ワーク  
 ショップ形式で一緒に考えていきましょう。

日時 2月17日(日) 14:00~16:00  
 場所 会津稽古堂3階 研修室1  
 講師 認定NPO法人IVY理事 阿部真理子さん  
 対象 どなたでも  
 定員 20名 ※参加料無料  
 申込み 2月16日(土)まで当協会へ

内容：  
 「もっと知ろう！スマホのこと、スマホを取り巻く  
 問題を考えよう」  
 ・スマホの歴史を紐解く  
 ・スマホとわたしたちの生活  
 ・スマホ・クイズ  
 ・並べてわかる！スマホが手元に届くまで  
 ・原料の世界地図  
 ・原料調達段階での問題「紛争鉱物をめぐる問題」

## おはなしのへや 外国語



## 子供たちみんな集まれ～



絵本の読み聞かせや簡単な単語を使ったゲームを  
 しながら、楽しく外国語に触ることができます。外国  
 語が初めてのお子さんも大歓迎です。

参加は無料です。  
 申込み・問合せ 会津図書館  
 TEL 0242-22-4711 FAX 0242-22-4702  
 ※会津図書館へ直接お申込みください。

日時 2月24日(日) 10:00~11:45

場所 会津稽古堂3階 研修室1.2.3  
 内容 外国語の絵本の読み聞かせ、  
 簡単なゲームなど

☆今回は、マレー語、ドイツ語、英語です。

対象 4歳～小学6年生  
 定員 45名

## 図書コーナー



## 宝を見つけよう～！

当協会の図書コーナーをご存知ですか？  
 当協会では、会員の方向けに、洋書や日本語学習関連図書、海外旅行に役立つ会話本、  
 外国語の絵本や雑誌などの貸し出しを行っております。(無料)  
 世界が広がる貴重な一冊に出会えるかもしれません！  
 お気軽に立ち寄りください。

お友達、ご家族、同僚の方々など…ご紹介下さい！ 問合せ・申込は当協会事務局へ！

会津若松市国際交流協会では会員を募集しています。会員の方には、情報紙FINEを毎月お送りします。  
 Like what you see in these pages? Why not receive news (English information in Just The Fax) and opportunities every month as a member?

欢迎你加入会津若松市国际交流协会。每月我们将为每位会员邮送中文或日文的信息报纸。

아이즈와카마츠시 국제교류협회에서는 회원을 모집하고 있습니다. 친구분들, 가족분들, 회사동료분들을 소개해 주시기 바랍니다.

※各事業実施に伴う写真撮影及び掲載許可について(お願い) 事務局が皆様の活動の様子を撮影し、情報紙やホームページ等に掲載する場合があります。掲載されたくない場合はお申し出ください。



# 会津若松市 から アメリカ本土初の日系移民 入植150周年！

## 日米交流の懸け橋に受け継がれる おけいの歴史

カルiforniaの大地に眠る、小高い丘の上にある小さな墓。今から150年前、日本から最初にアメリカ本土にやってきた移民団のひとりで、アメリカ本土で最初になくなった「日系移民の女の子」の墓。彼女の名は伊藤おけい。

1869年(明治2年)、夢と希望を胸に会津若松からやってきた移民団22人は、カリフォルニア州北部エルドラド郡ゴールド・ヒルからほど近い、のどかな田園風景が広がる土地に、アメリカ本土初の日本人入植地「若松コロニー」を形成した。彼らは日本からアメリカ本土に渡った最初の入植者である。当時サンフランシスコ港に到着した移民団の様子を、地元記者は、「日本人一行は自由人で、大変教養があり洗練された紳士たちで、その家族も高貴である」と褒めたたえた。

プロイセン人の武器商人ヘンリー・シュネル率いる移民団は、戊辰戦争に破れた会津藩の侍などで形成され、カリフォルニアの地で茶と絹の栽培を試みた。しかし、当時カリフォルニアはゴールドラッシュ全盛期で、金山から流れ出た鉄や硫黄などの成分を含んだ水に、茶や桑の木は汚染され次第に枯れはじめ全滅。経済難からわずか2年で若松コロニーは崩壊。



故郷会津若松の方角に向けられている  
おけいの墓  
(写真=吉田純子、羅府新報、  
2019年1月1日付)

新天地開拓の夢破れ、入植者たちは日本に帰る者、同地に残る者、それぞの道をたどった。跡地は隣人だった農場主ビアキャンプ家が買い取り、その地に残ったのはシュネルの子の子守りだったおけいと、元会津藩士の桜井松之助、大工の増水国之助の3人となった。

おけいは会津若松の大工・伊藤文吉とお菊の長女で、わずか17歳で親元を離れ、言葉も違う異国に取り残された。だが、彼女を引きとったビアキャンプ家は、おけいのことを本当の娘のように可愛がっていて、『ジャパニーズ・プリンセス』と呼んでいたようだ。大切にされていたおけいだったが、71年夏、突如熱病にかかり3日後に帰らぬ人となってしまった。わずか19歳だった。アメリカにわたる娘の背中を日本で見送ったであろうおけいの父と母はおそらく、娘の死を知らぬまま生涯を過ごしたとされる。

故郷を離れ、遠いアメリカの地で若くして亡くなったおけいの死を不憫に思った桜井は、当時墓石は高額だったにもかかわらず、遠いところまで大理石の墓を買いに行き、おけいのために墓を作った。

言い伝えによるとおけいは生前、夕日が照らす小高い丘の上にひとり佇み、時折、会津若松の方角を眺めていたという。故郷を思い、会えぬ父母を思っていたのかもしれない。彼女の墓が見つめるその先は、遙か遠くにある故郷会津若松だ。1957年には会津若松における記念碑が建てられ、おけいが眠るカリフォルニアの方角を見つめている。



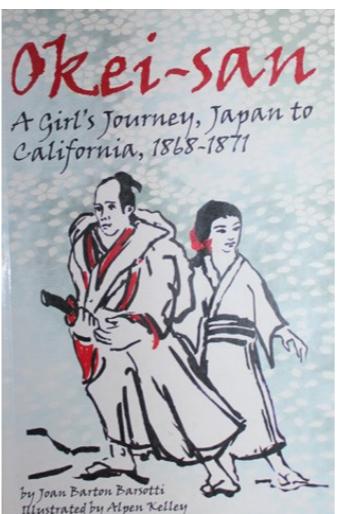
若松コロニーの跡地  
(写真=吉田純子、羅府新報、  
2019年1月1日付)



おけいの墓は、死後長く知られることはなかった。墓を尋ねる人も、花を手向ける人もなく、一人寂しくカリフォルニアの大地に眠っていた。こうしてアメリカの土に眠る最初の日系移民の女の子となつた彼女の存在は忘れ去られたかに思われた。しかし、ある記事がきっかけとなり、彼女の存在は広く日系社会に知れ渡ることになった。

1916年、サンフランシスコの邦字新聞「日米新聞(現在は廃刊)」の記者・竹田文治郎(雪城)が、コロマ在住の果樹園経営者・国司為太郎氏の情報のもと、日本人のものとみられる墓の場所に行き、おけいの墓の存在を最初に記事にした。この記事によりおけいとその墓の存在が広く日系社会に知れたのは、死から半世紀近く経った後だった。

その後、20~30年代の地元の邦字新聞にはおけいに関する記事が多数掲載され、アメリカ本土で最初に亡くなった女の子の話は、日系社会で一大旋風を巻き起こした。おけいの墓参りツアーも頻繁に実施され、おけいの物語を伝えるラジオ番組も制作されたほどである。



(写真=吉田純子、羅府新報、  
2019年1月1日付)

現在若松コロニーの跡地は、自然保護を目的に活動するNPO「アメリカン・リバー・コンサーバンシー(ARC)」が管理運営し、2010年「若松ファーム」と名付けられた。

若松ファームがあるエルドラド郡の小学4年生は、読書プログラムの一環で、日本からカリフォルニアに来たおけいの生涯を伝える本「Okei-san: A Girl's Journey, Japan to California, 1868-1871」を読む。また若松ファームを訪れ若松コロニーについて学ぶ遠足プログラムも実施されており、ARCによると毎年約200人近い生徒がおけいの墓を訪れ、若松コロニーの歴史を学んでいるという。

移民団入植から100周年を迎えた1969年には、当時カリフォルニア州知事だったロナルド・レーガンが、若松コロニーの跡地をカリフォルニア州の歴史史跡に指定。敷地の隣にあるゴールド・トレイル小学校は、80年から東山小学校と姉妹校提携をしており、図書館には浮世絵をモチーフにした壁画が描かれ、東山小学校の児童から送られてきた千羽鶴や習字、メッセージが書かれた本などが飾られている。

こうして今に生きる私たちにとって、若松コロニーの存在は確実に日米交流の懸け橋になっている。

かつて若松コロニーがあった場所の片隅には今、再び茶の木が植えられている。数年後、木が成長し、茶葉を摘めるようになった時、それは150年前に果たせなかつた入植者たちの夢が花開く時なのかもしれない。

今年は、アメリカ本土に日系移民第1号が入植してから150年を迎え、ARCは6月6日から9日の4日間にわたって150周年記念式典「Wakamatsu Fest 150」を開催。



「アメリカ本土初の日系移民、入植から150周年：  
夢と希望胸にカリフォルニアに来た先駆者」の特集記事からの転載  
(取材=吉田純子、羅府新報、2019年1月1日付)

\*羅府新報は、アメリカにおける代表的な日本語新聞の一つとして、アメリカ国内で最も多く購読されている邦字新聞。2003年には創刊100周年を迎える。

